

三江線 ラップ

創刊号
2014
秋冬

神楽ラッピング出発進行！





神楽気分で三江線乗り鉄

14年7月19日に全線復旧を果たしたJR三江線を盛り上げようと、鳥根、広島両県沿線6市町などの活性化協議会が9月27日、地元でさかんな神楽をデザインしたラッピング車をデビューさせました。前後面は人気演目に登場する大蛇と鍾馗を、側面は線路に沿う江の川の水色と山なみの緑をベースに神楽の登場キャラを可愛らしく描きました。

車内はトイレ横の壁に江の川と神楽の写真をデザインで、外から中から笛や囃子が聞こえてきそう。

活性化協議会「神楽列車」ツアーに充てられるほか、一般の列車としても使われます。ラッピングのフィルムがはげるまで走り続けるそうで、どの便で使われるかは活性化協議会のホームページで確かめられます。ひと味違う三江線へ乗り、撮りに来ませんか。

広島120系がやってきた

三江線活性化協議会が走らせた「神楽列車」の第1便（9月20日運行）に普段は乗り入れのないJR西日本広島支社のキハ120系2両編成が登場し特別感を演出しました。

三江線はすべての区間が米子支社のエリアで、普段は浜田鉄道部所属の白、青、赤のキハ120系1両だけが走っています。11月8日は国立三瓶青少年交流の家の貸切列車でキハ47系が走ってネットで話題を呼びました。



川平の駅猫 ごっちです



川平駅にすみついた野良猫のごっちが8月に新聞へ取り上げられ、駅猫として人気を集めています。

駅で列車の客を出迎えるほか、工事現場の朝礼にも参加。住民や作業員から餌をもらい、すっかり人慣れしています。みんな会いに来てにゃ。



石見川本チャリで満喫

昼に列車が1時間半止まる石見川本駅。停車時間に川本を楽しんでもらおうと、旅行者向けの無料レンタサイクルが登場しました。12時09分着の三江線列車をほぼ毎日出迎えている川本町観光協会の方か、駅前のすし屋「新栄寿司」さんに声を掛ければ使うことができます。

江の川堤防や対岸の山寺を巡るもよし、因原まで行って道の駅でみやげを買うもよし。中国山地の澄んだ空気をお楽しみください。





夜の三江線 明かり満開

秋冬の三江線では明かりを使ったイベントが相次ぎ、7月に全線復旧を果たした鉄路を優しく幻想的な光で包み込みました。

10月18日は石見都賀駅近くの神社で参道に竹灯籠4千本を飾る「光と伝統芸能の祭典」があり（写真左下）ろうそく明かりの上を列車が通過。11月29、30日には宇都井駅や周辺で「INAKAイルミ」があり（写真上と右中）多くのカメラマンたちでにぎわいました。



12月12日には石見川本駅のイルミもスタート。1月9日まで楽しめます（写真右下）。

1月は各地で消防出初式の放水やとんどがあり、山間部らしい風景と列車を絡めた1枚を撮れます。